

中学校社会科公民分野・高等学校公民科の教師として求められる資質や能力とは何か論じなさい。

【解答】

近年、団塊世代の教員が退場し、教師の世代交代が進むと同時に、学校内における教師の世代間のバランスが変化し、教育に関わる様々な経験や知見をどのように継承していくかが課題となっている。また、子供たちを取り巻く環境の変化により学校が抱える課題も複雑化・困難化する中で、これまでどおり学校の工夫だけにその実現を委ねることは困難になってきているのも実情である。そのため、平成 30 年告示の学習指導要領では、何を教えるかということ以上に、どうやって教えるか、どのように生徒を成長させるかという、これまでの学習指導要領では扱ってこなかった点にまで踏み込んで、これからの学校教育のあるべき目的と価値を重視している。ⁱ

学習指導要領等が学校、家庭、地域の関係者が幅広く共有し活用できる「学びの地図」としての役割を果たすことができるよう、「カリキュラム・マネジメント」の考え方が強く打ち出されている。前述したようにどうやって教えるか、どのように生徒を成長させるかという点が学習指導要領とリンクしていることが分かる。

- 1 「何ができるようになるか」(育成を目指す資質・能力)
- 2 「何を学ぶか」(教科等を学ぶ意義と、教科等間・学校段階間のつながりを踏まえた教育課程の編成)
- 3 「どのように学ぶか」(各教科等の指導計画の作成と実施、学習・指導の改善・充実)
- 4 「子供一人一人の発達をどのように支援するか」(子供の発達を踏まえた指導)
- 5 「何が身に付いたか」(学習評価の充実)
- 6 「実施するために何が必要か」(学習指導要領等の理念を実現するために必要な方策)

高等学校の教師として求められる資質や能力として、上記の「カリキュラム・マネジメント」に沿って、授業を構築し、生徒を成長させる視点が求められることはいうまでもない。

次に、高等学校学習指導要領公民の目的としては次のように記載されている。ⁱⁱ

社会的な見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指

す。

上記の「カリキュラム・マネジメント」の考え方に立つと、「(教師が) 何を教えるのか」「(教師が) どうやって教えるのか」という教師サイドで授業を作るのではなく、「(生徒が) 何を学ぶのか」「(生徒が) どのように学ぶのか」という視点を大前提とする考え方が必要である。その上で「どのように支援するのか」「どのように評価するのか」「何が必要なのか」と、生徒の思考・判断の過程を教師が支えられるかという視点で捉える「メタ認知」が重要となってくる。

金鐘成は、授業の最終決定者である教師が変われば、良い方向解決できるはずだとし、教師が「自らのゲートキーピング（主体的なカリキュラムの調整）をメタ認知しそのゲートキーピングを洗練していく教師を育てることができれば、どのような変化が訪れても日本の社会系教科教育の未来は明るい」と述べている。ⁱⁱⁱ

とはいえ、生徒に丸投げしても授業はできない。教員の側で必要な点をまとめてみたい。まず、「社会的な見方」とは中学校社会科、地理歴史科、公民科の特質に応じた見方・考え方であり、高校の公民の授業をデザインする際には、中学校の社会科、高校の地理歴史科の視点を持つことが必要である。次に、「現代の諸課題を追究したり解決したりする活動」については、課題探求的なアプローチと生徒同士の対話の場を作らなければならない。得てして、学校現場では、そうした探究型の授業を実施すると教科書が終わらないという批判が上がる。生徒の活動を主体に考え、その時間を確保するために、「カリキュラム・マネジメント」にある指導計画の丁寧な作成が必要となる。

「グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力の育成」の項については、選挙権年齢が引き下げられ、成年年齢も 18 歳へと引き下げられることに伴い、政治や社会が一層身近なものとなるとともに、地域や国家に対して権利と責任を果たす「主権者教育」の視点が必要である。令和 3 年以前は、高校生は未成年であったため、本格的な主権者教育は実施されてこなかった。しかし、高校 3 年生から選挙権を得ることに伴う権利と義務や責任を明らかにすることが必要である。また、その際に日本国内だけでなく、国際社会という枠組みで生徒を育てていくことが求められる。公民といえども、歴史や地理の社会的な見方が求められる所以である。

OECD が最近強調している「教育の質は教師の質を超えられない (The quality of education will never exceed the quality of teachers)」という言葉がある。教員自身が質を高めていく研修と努力、そして教職の魅力を再確認することが教員の資質と能力には欠かせない。^{iv}

文字数：2,071

【引用・参考文献】

- i 文部科学省『高等学校学習指導要領解説公民編』2018, pp. 1
- ii 同前掲書, pp.21
- iii 社会認識教育学会編『中学校社会科教育・高等学校公民科教育』学術図書出版会, 2020, pp.136-137 参考
- iv 学びの場. com『篠原 真子 PISA を語る。 - 教育インタビュー』2015,
<https://www.manabinoba.com/interview/23019.html> (2024/08/31 参照)